ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

2020年5月19日

2019年度　決算説明会

あすか製薬株式会社

証券コード：４５１４

重要な注意事項

- この資料に含まれる将来の予測に関する事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定および判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。
- したがって、実際の業績、開発見通し等は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき願います。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2019年度
連結決算概要

あすか製薬株式会社
代表取締役専務取締役　丸尾　篤嗣

損益計算書（連結）

単位：百万円	2018年度	2019年度	増減額	増減率
売上高	46,706	52,542	5,836	12.5%
売上原価	27,814	28,525	709	2.6%
売上総利益	18,890	24,016	5,126	27.1%
販売費及び一般管理費	17,107	22,509	5,401	31.6%
営業利益	1,782	1,507	△275	△15.5%
経常利益	1,980	1,715	△264	△13.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,744	649	△1,094	△62.8%

事業別売上高（連結）

単位：百万円

	2018年度	2019年度	構成比	増減額	増減率
医療用医薬品	41,757	47,851	91.1%	6,094	14.6%
動物用医薬品	4,669	4,502	8.5%	△166	△3.6%
その他	278	187	0.4%	△91	△32.8%
合計	46,706	52,542	100.0%	5,836	12.5%

主要製品売上高

2019年度から「収益認識に関する会計基準」を適用

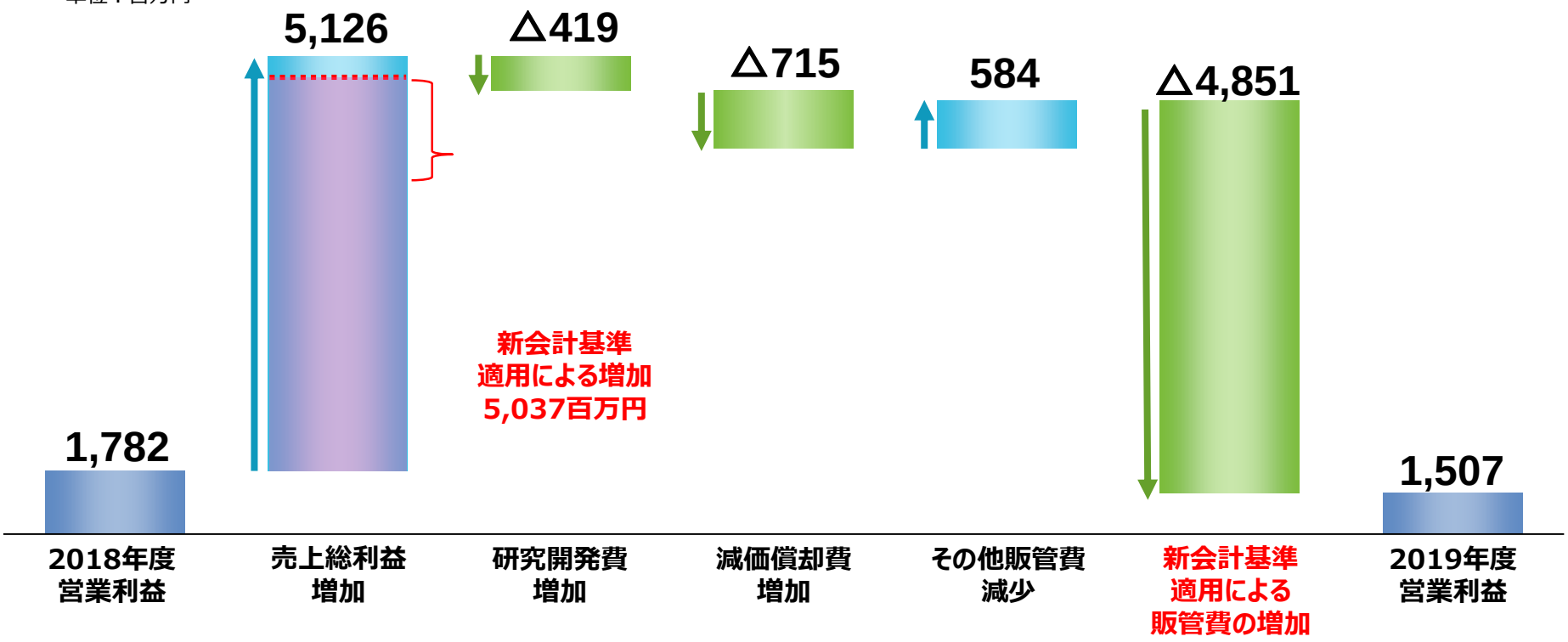
単位：百万円

領域	製品		2018年度	2019年度		2020年度	
			実績	実績	前同比（%）	計画	前同比（%）
内科	※1、※2	カンデサルタン類	11,924	13,224	110.9%	11,486	86.9%
		チラーヂン	5,657	6,893	121.9%	7,169	104.0%
		リフキシマ	2,478	3,780	152.5%	4,829	127.7%
	※1	アムロジピン	1,390	1,437	103.4%	1,184	82.4%
		メルカゾール	1,159	1,380	119.1%	1,383	100.2%
		リピディル	1,803	1,370	76.0%	1,294	94.5%
産婦人科		レルミナ（2019.3~）	363	2,615	720.4%	5,921	226.4%
	※1	フリウェル（2018.12~）	668	2,248	336.5%	2,469	109.8%
		アンジュ	835	1,009	120.9%	958	94.9%
		ルテウム	392	514	131.1%	519	101.0%
		ノルレボ	1,294	217	16.8%	180	82.9%
	※3	マグセント（2020.3~）	-	55	-	878	1583.7%
泌尿器科	※1、※4	リュープロレリン	4,167	4,794	115.1%	3,639	75.9%
	※1	ビカルタミド	1,221	1,258	103.0%	1,060	84.3%

※1 ジェネリック医薬品
※2 配合剤を含む
※3 硫酸マグネシウム製剤の合算値
※4 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤との合算値

営業利益増減分析（対前同）

単位：百万円



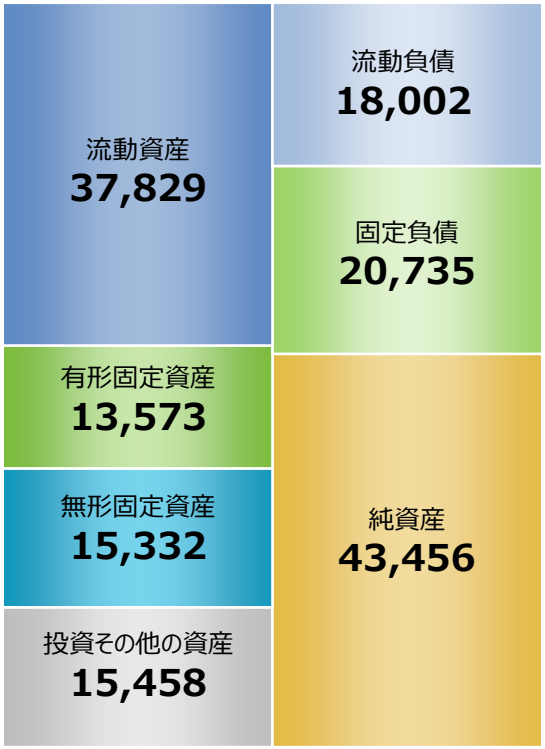
要因分析

- 売上総利益は増加したものの、販売権の償却開始による減価償却費の増加や開発ステージの進展による研究開発費の増加等から、営業利益は減少

貸借対照表（連結）

2018年度末

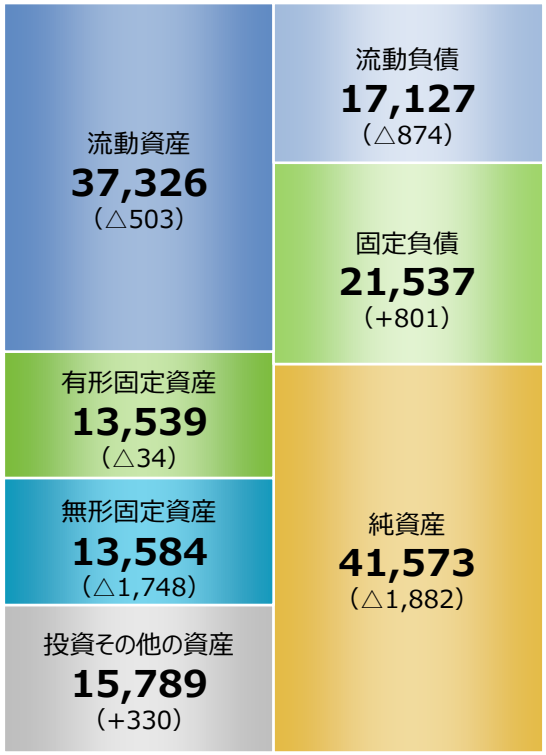
単位：百万円



総資産　82,194百万円

2019年度 期末

単位：百万円



総資産　80,239百万円
（△1,954）

■ 資産の部

現金及び預金	△3,688
受取手形及び売掛金	2,770
有形固定資産	△34
無形固定資産	△1,748

■ 負債・純資産の部

支払手形及び買掛金	△1067
借入金	△49
利益剰余金	△1,070

2020年度予想（連結）

単位：百万円

	2019年度 実績	2020年度 予想	対前年 増減額	対前年 増減率
売上高	52,542	53,000	458	0.9%
営業利益	1,507	2,000	493	32.7%
経常利益	1,715	1,900	185	10.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	649	1,500	851	131.1%

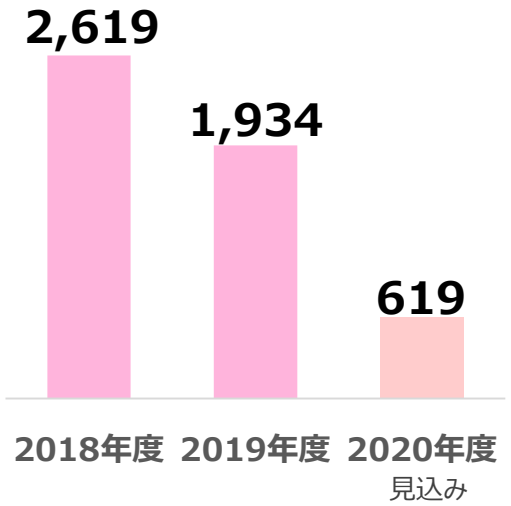
要因

- 売上高は、「レルミナ」「マグセント」をはじめとする産婦人科領域の新製品群や「リフキシマ」の売上拡大により、増収となる見込み。
- 利益面では、前期に発生した研究所の移転に伴う特別損失等が無いことから、親会社株主に帰属する当期純利益については、大幅に増益となる見込み。
- 新型コロナウィルスによる業績への影響については織り込んでいない

ご参考：設備投資・減価償却費・研究開発費

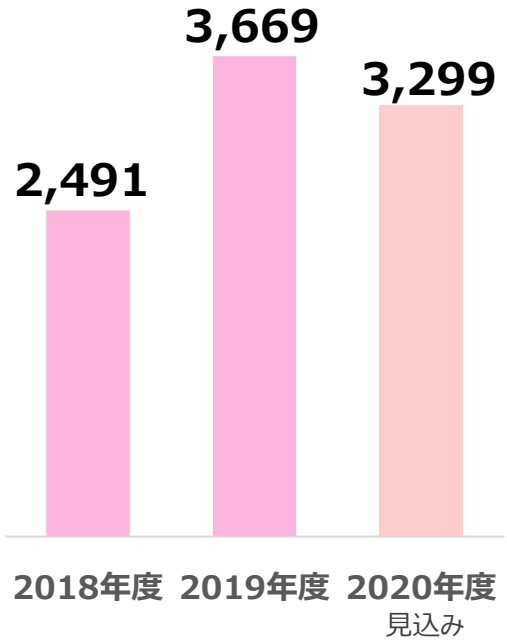
設備投資

（百万円）



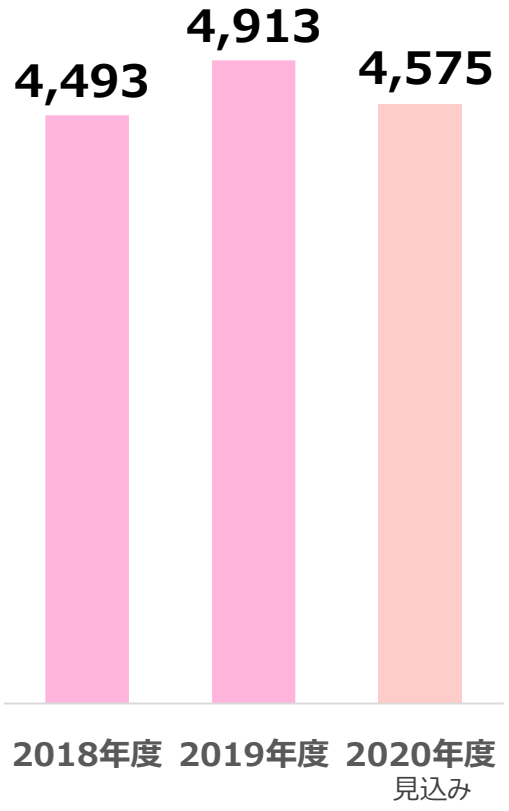
減価償却費

（百万円）



研究開発費

（百万円）



2019年度総括
2020年度の取り組み

あすか製薬株式会社
代表取締役社長　山口 隆

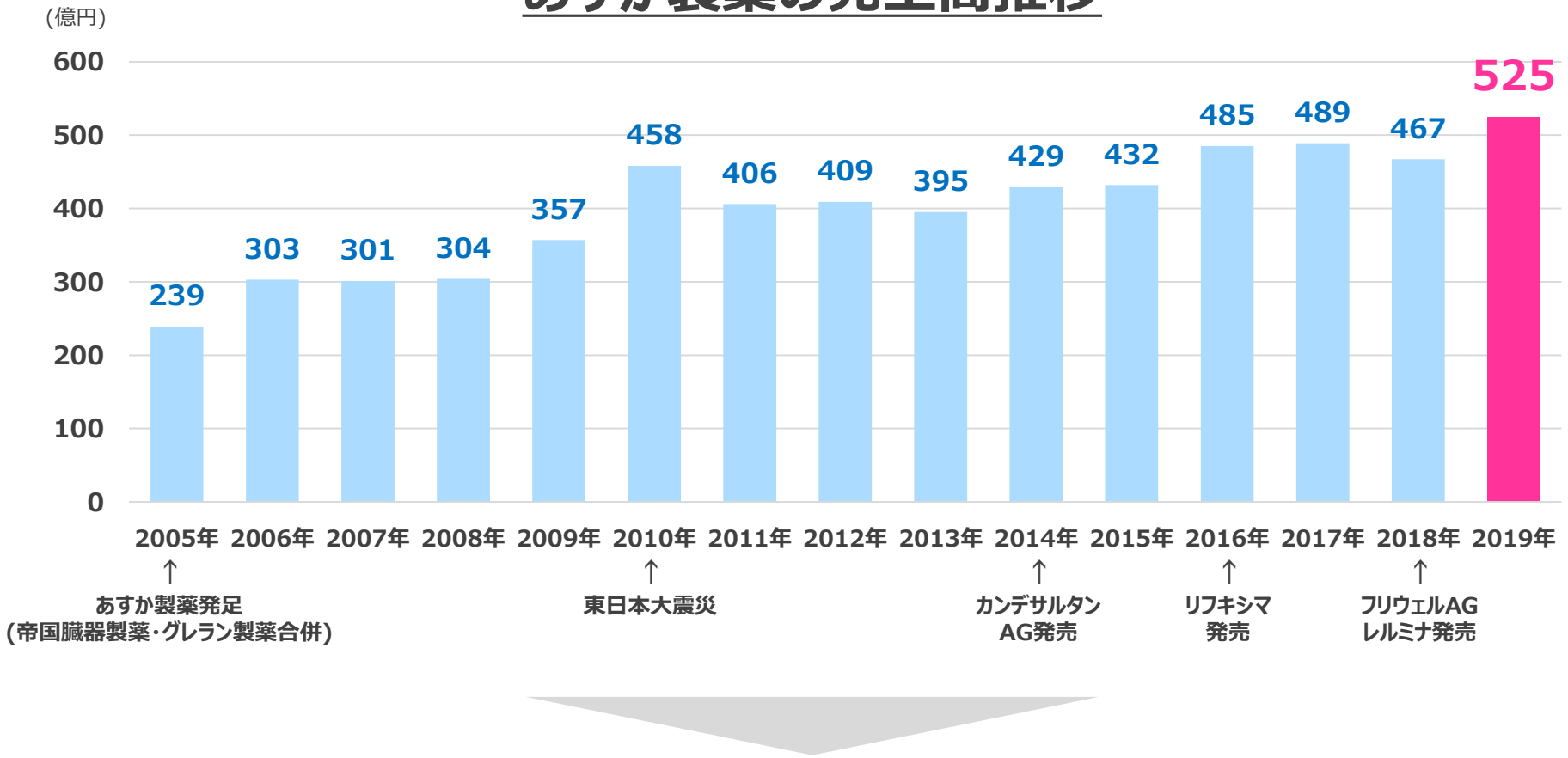
本日の内容

- 2019年度総括
- あすか製薬の目指す姿
- 女性のヘルスケアへの貢献
- その他重点領域の取り組み
- 研究開発状況

2019年度総括

2019年度の主な成果①

あすか製薬の売上高推移



創立以来初となる売上高500億円を達成

2019年度の主な成果②

活発なライセンス活動

RaQualia innovators for life	ラクオリア創薬との創薬研究に関する共同研究契約
Renascience	レナサイエンスとの婦人科領域における 共同開発及びオプション契約
KinoPharma	キノファーマとの子宮頸部異形成治療薬 に関するオプション契約
INSUD PHARMA	Insud Pharmaとのドロスピレノンに関する ライセンス契約締結

あすか製薬の目指す姿

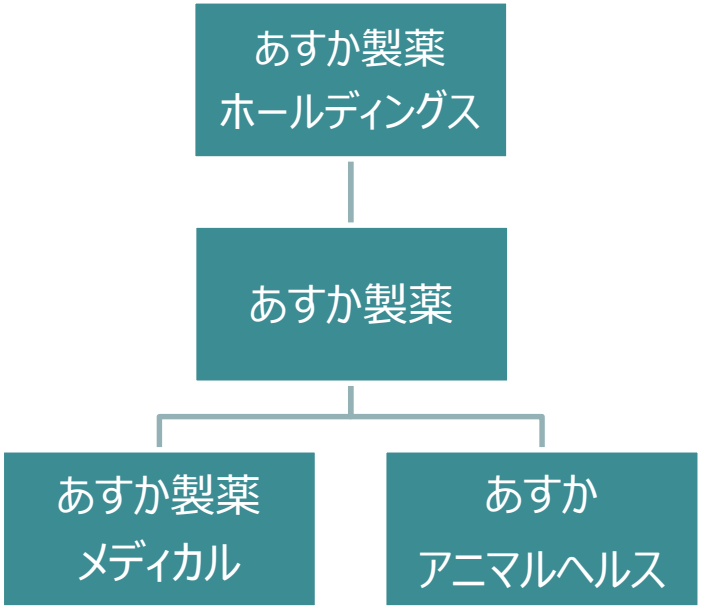
あすか製薬の提供価値

営業活動	研究開発	生産	体制
・医療ニーズの情報収集 ・専門性の高い情報提供	・新しい環境での創薬 ・製品導入、導出活動	・いわき工場を中心とした生産体制の構築	・持株会社へ体制移行
治療の普及と貢献	新薬の継続的開発	安定供給責務	多様化する医療ニーズへの対応

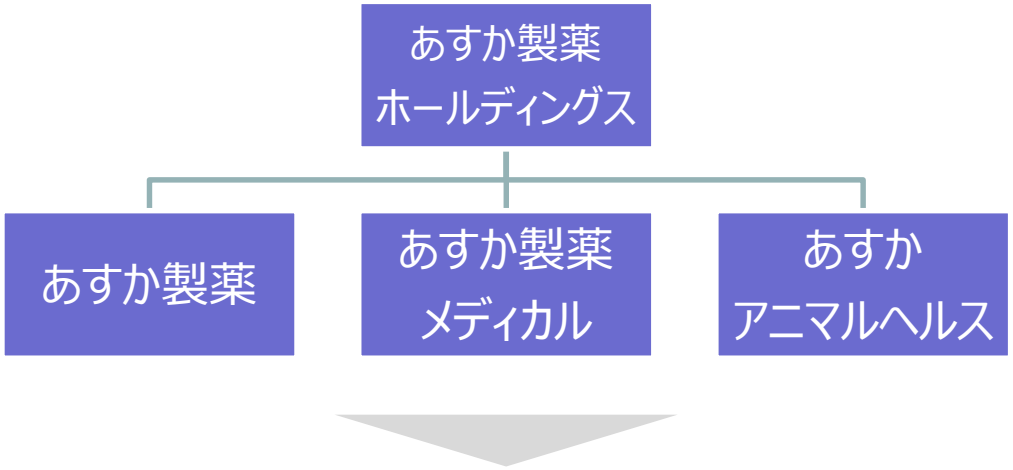
生活の質の向上につながる薬の開発及び普及により、
女性の健康と社会進出をサポートする

あすか製薬ホールディングス株式会社の設立へ

<Step1：2021年4月1日以降>



<Step2：早期移行予定>



『トータルヘルスケアカンパニー』を目指す

【本株式移転の要旨 】

株式移転承認定時株主総会：2020年6月25日
当社株式上場廃止日：2021年3月30日
持株会社設立登記日：2021年4月1日 （効力発生日）
持株会社株式上場日：2021年4月1日

【注】
本株式移転の手続進行上の必要性その他の事由により日程を変更することがあります。
新たに設立する持株会社の株式は、東京証券取引所市場第一部に上場申請する予定です。
また、当社は本株式移転により持株会社の完全子会社となりますので、
持株会社の上場に先立ち上場廃止となる予定であります。なお、上場廃止日につきましては、
東京証券取引所の規則に基づき決定されるため変更される可能性があります。

ホールディングス化の狙い

①ヘルスケア領域における関連事業の強化

ヘルスケアを『予防～検査・診断～治療』の一連の枠組みとしてトータルに認識し、関連事業の展開を図る。

②経営と執行の分離

グループ各社の役割と責任を明確にし、事業環境の変化に適切かつ迅速に対応できる体制を目指す。

③グループ価値の最大化

各事業の特性を考慮してグループ会社間の戦略的連携をとり、グループ全体での最適経営を進める。

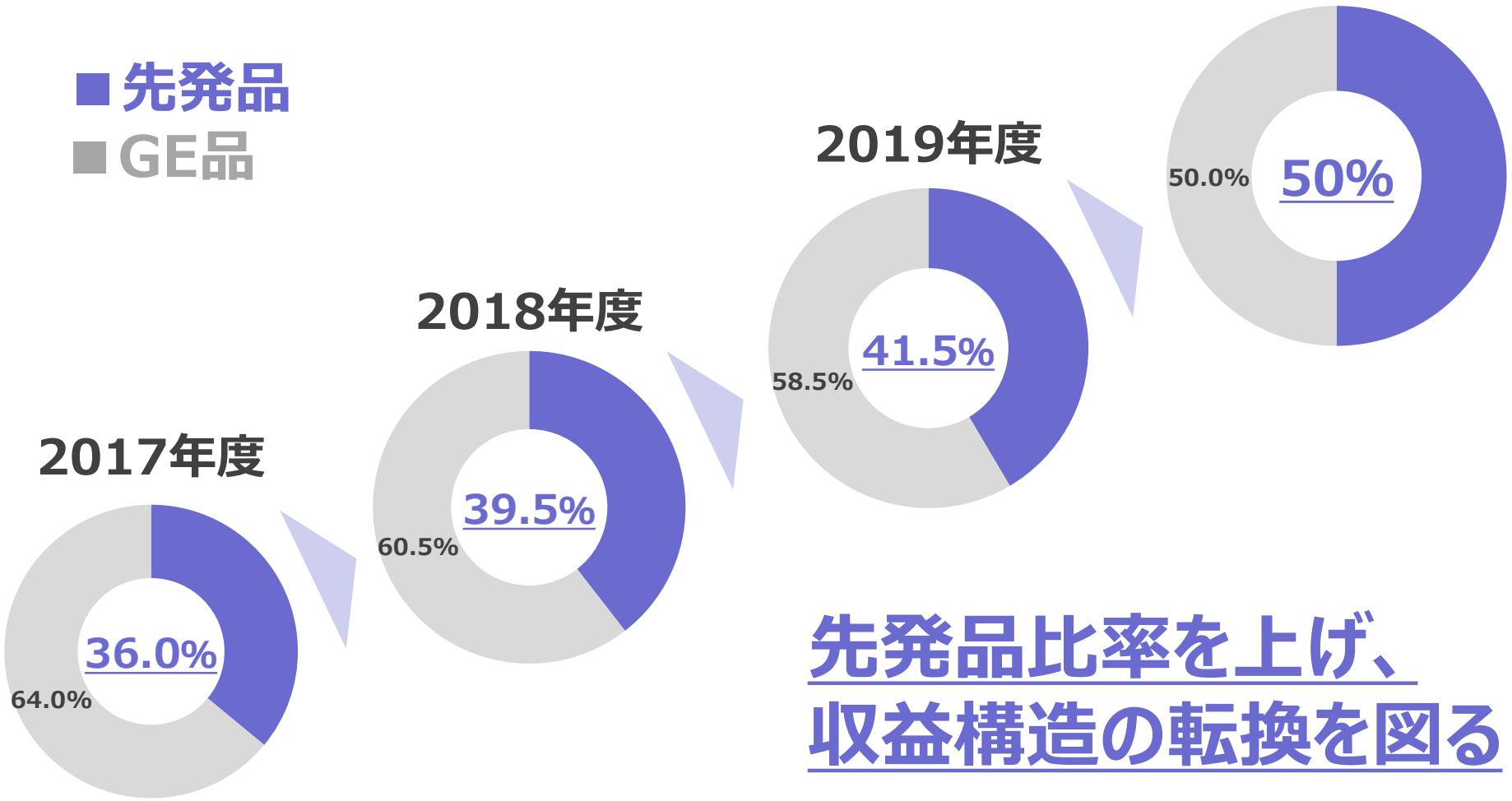
④グループガバナンスの強化

持株会社にグループ全体のガバナンスを統括する機能を置き、統一されたポリシーの下で事業運営を行う。

新薬を中心とした事業への転換

先発品とGE品 売上高の割合

■先発品
■GE品



先発品比率を上げ、収益構造の転換を図る

ASKA PLAN 2020

中期経営計画「ASKA PLAN 2020」

連　結	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 計画	次期中計 達成目標
売上高	485億	489億	467億	525億	530億	700億
営業利益率	3.7%	5.8%	3.8%	2.8%	3.8%	10.0%
ROE	7.8%	5.8%	4.1%	1.5%	3.6%	8.0%

現在、次期中計を策定中 ▶ 2020年度内に発表予定

- 売上高：700億円　営業利益率:10%　ROE:8%は次期中計期間中の達成を目指す。
- 700億円達成の材料
  - 発売済：レルミナ（子宮筋腫）、フリウェル、リフキシマ
  - 開発中：ウリプリスタル、レルミナ（子宮内膜症）、AKP-009　など

SDGsへの取り組み

× SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

あすか製薬は創立以来、チラーヂンを中心とした
世の中になくてはならない医薬品の製造や、
幅広い産婦人科製品の提供を通じた、
女性のヘルスケアへの貢献に取り組んできた。

今後も製薬会社として果たすべき役割を考え、
SDGsに貢献する取り組みを行っていく。



創立
1920年

現在
2020年

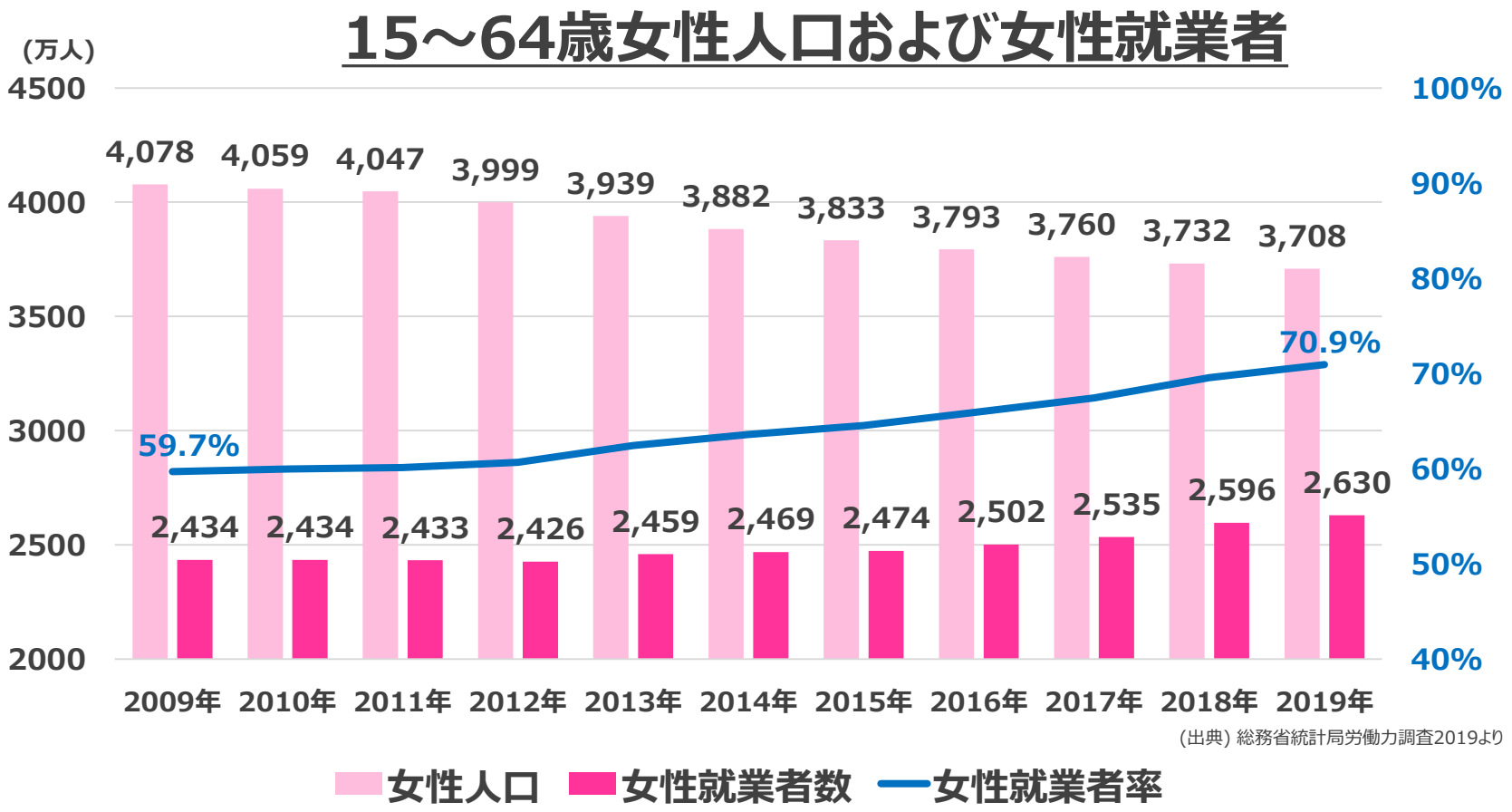
SDGs
2030年

あすか製薬が貢献していく項目

3.すべての人に健康と福祉を
5.ジェンダー平等を実現しよう
7.エネルギーをみんなに そしてクリーンに
12.つくる責任 つかう責任
13.気候変動に具体的な対策を
17.パートナーシップで目標を達成しよう

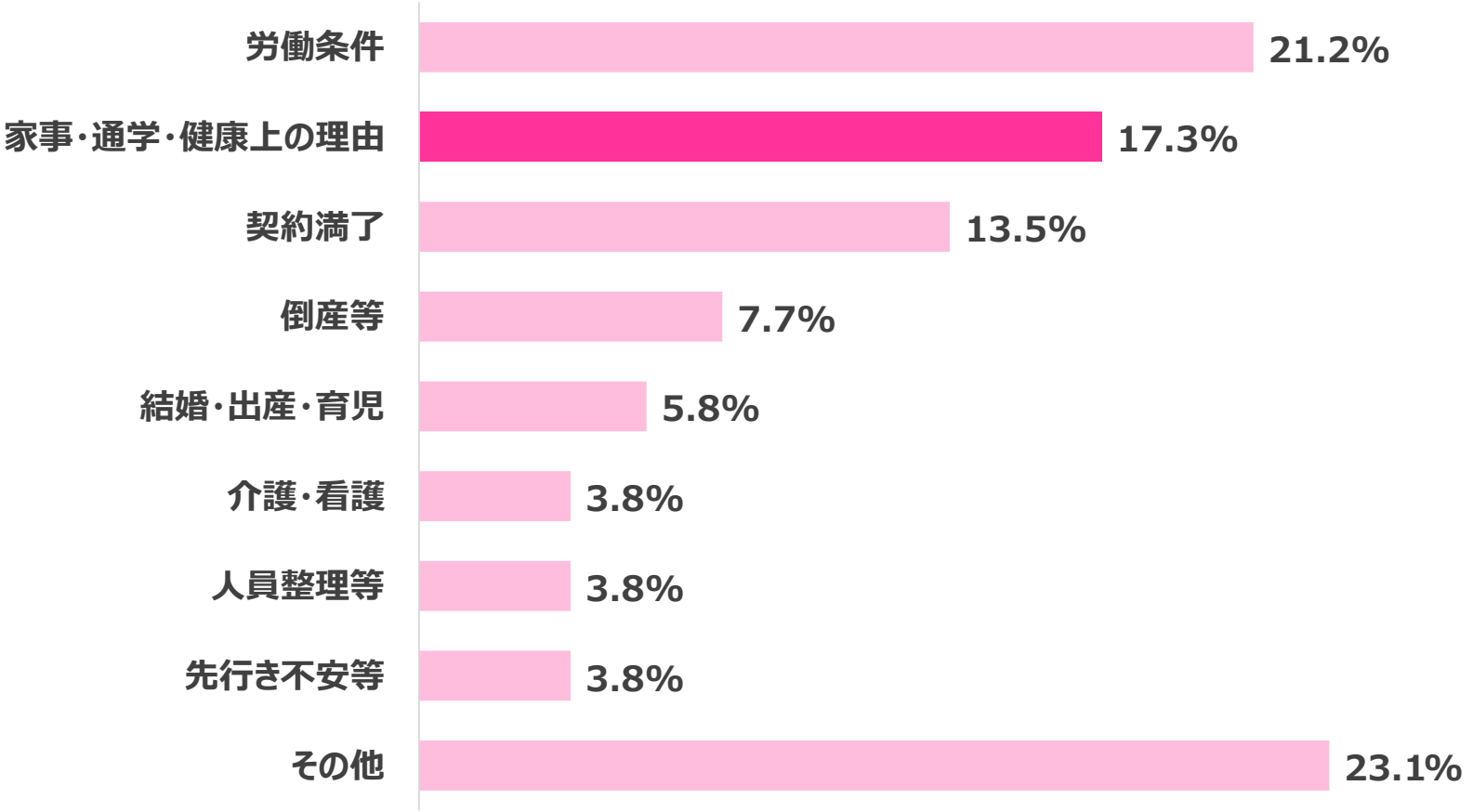
女性のヘルスケアへの貢献

女性の就業者数推移



女性の就業者数は10年間で約196万人増加している

女性の離職理由 (2019年)

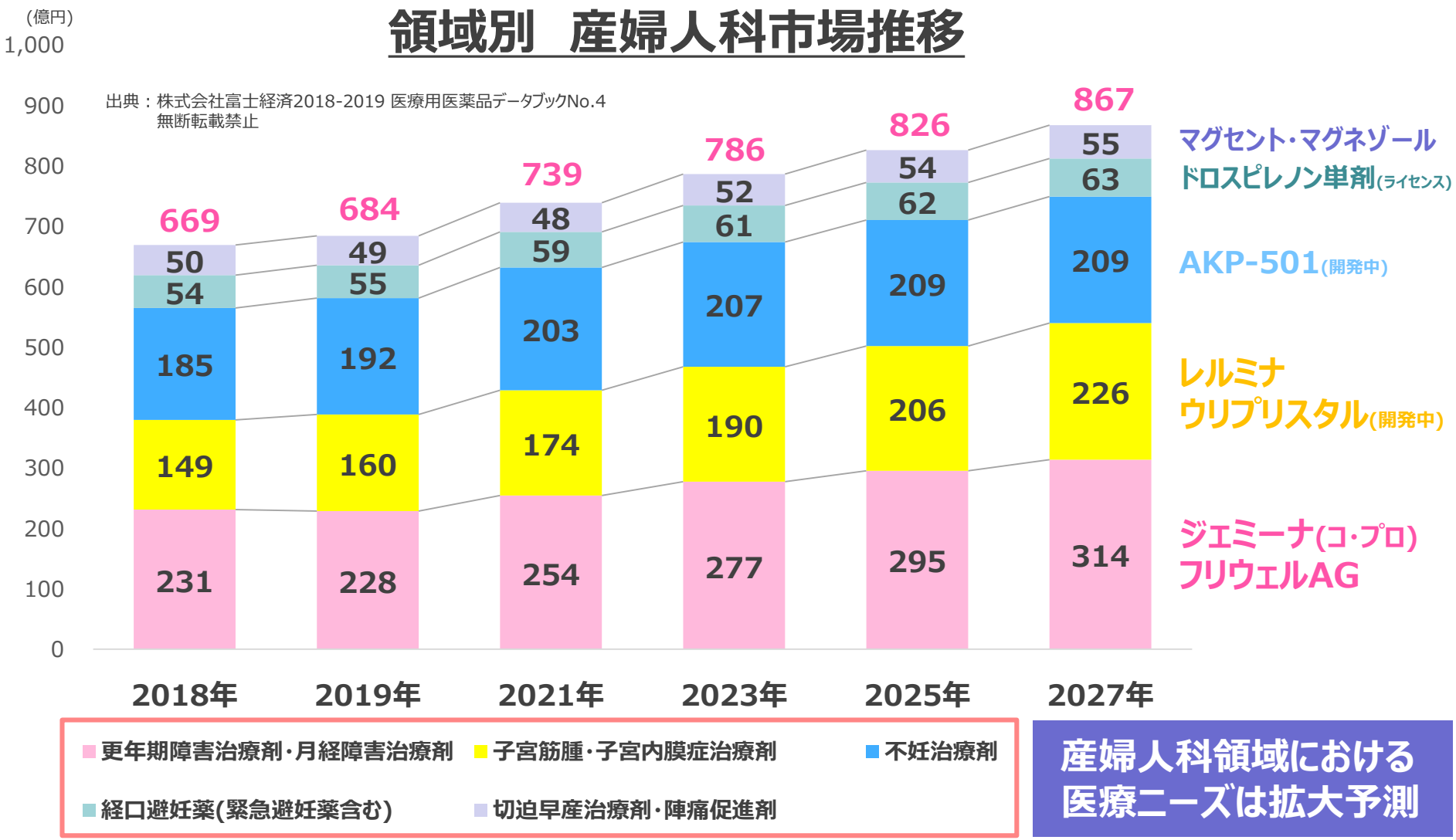


(出典) 総務省統計局労働力調査2019より

一方、健康上の理由等で離職せざるを得ない女性も多い

産婦人科市場の予測

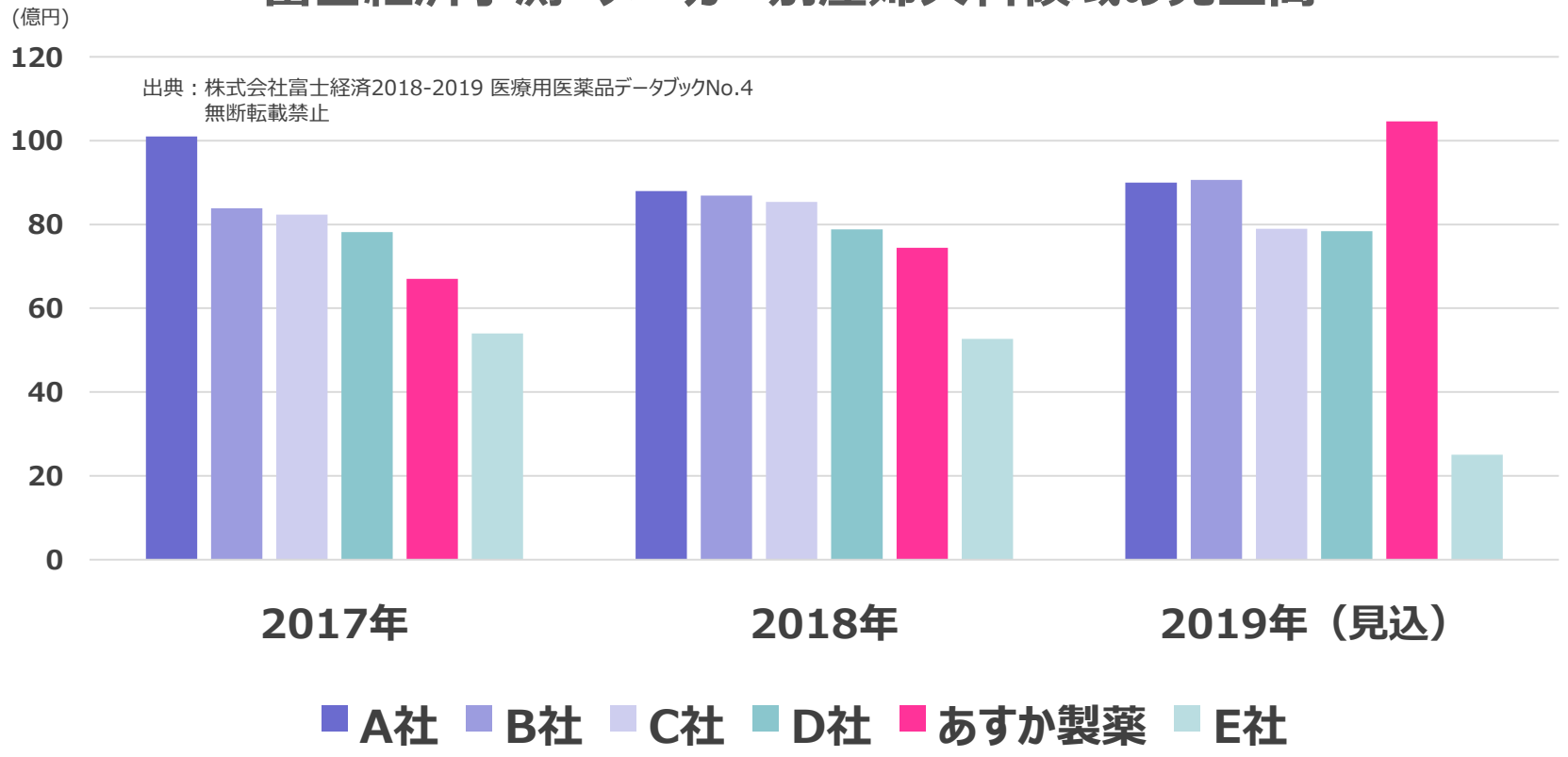
領域別　産婦人科市場推移



産婦人科領域における医療ニーズは拡大予測

産婦人科領域　売上高推移

富士経済予測　メーカー別産婦人科領域の売上高



あすか製薬は産婦人科領域に最注力

産婦人科製品　ライフステージ別

幼少期 | 思春期 | 生殖年齢期 | 更年期 | 老年期

経口避妊
- ドロスピレノン単剤
- アンジュ
- ノルレボ

更年期障害
- ホーリン

月経異常
- プラノバール

月経困難症/ 子宮内膜症 /子宮筋腫
- ジエミーナ(コ･プロ)
- レルミナ
- ピリドキサミン
- フリウェル
- ウリプリスタル
- リュープロレリン
- ジエノゲスト

不妊症
- AKP-501
- HMG注テイゾー
- ゴナピュール
- ゴナトロピン
- ルテウム
- セキソビット

流･早産 / 出産
- マグセント
- マグネゾール
- リトドリン
- アトニン-O

STD/感染症
- 子宮頸部異形成治療薬
- ラピッドエスピー(コ･プロ)

新規契約
開発中
新製品
導入品

幅広いラインナップで
女性のヘルスケアに貢献





レルミナ®錠 RELUMINA

子宮筋腫治療剤(GnRH)の発売年

- 1988年 • ブセレリン酢酸塩(点鼻液)
- 1992年 • リュープロレリン酢酸塩(皮下注)
- 1995年 • 酢酸ナファレリン(点鼻液)
- 1999年 • ブセレリン酢酸塩(皮下注)
- 2019年 • レルミナ®錠40mg(経口)

20年ぶりの子宮筋腫治療剤

子宮筋腫市場



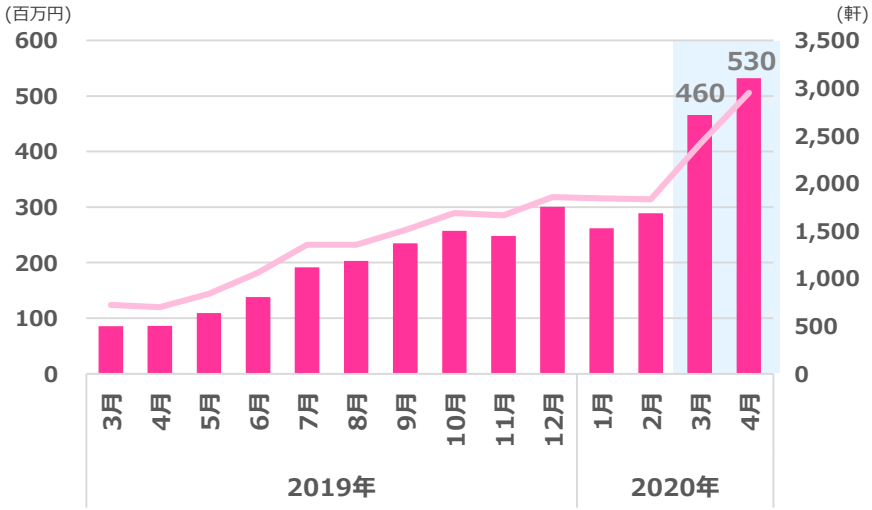
出典：日本医療データセンター

子宮筋腫治療の実態は、GnRH以外の治療も多い

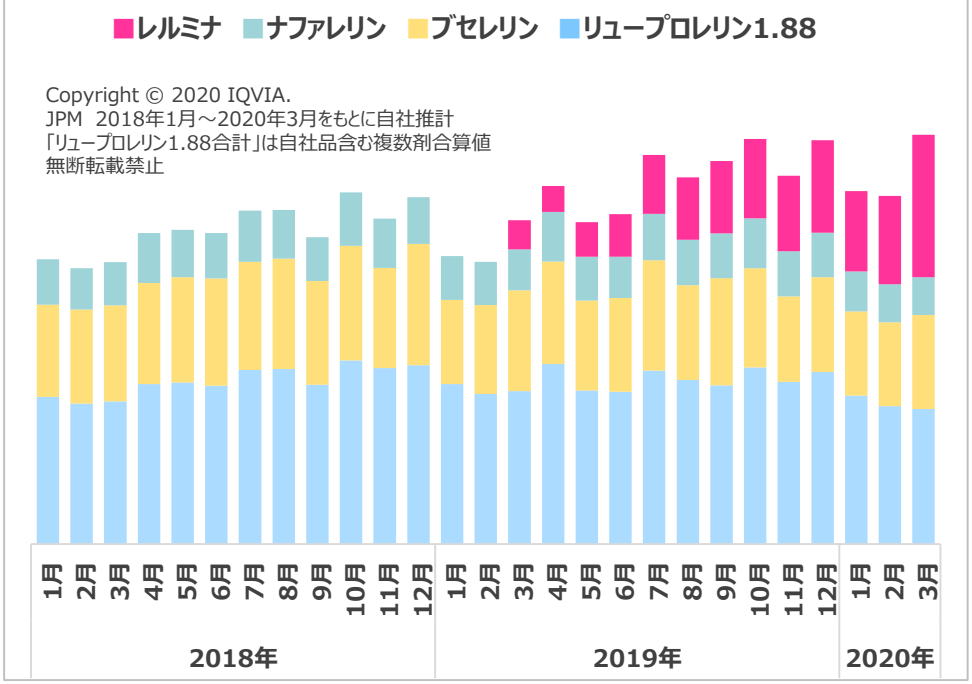
レルミナ®錠
RELUMINA

2020年3月:処方日数制限解除

レルミナの実績 ※医療機関納入ベース



子宮筋腫　推定症例数 ※数量からの推計

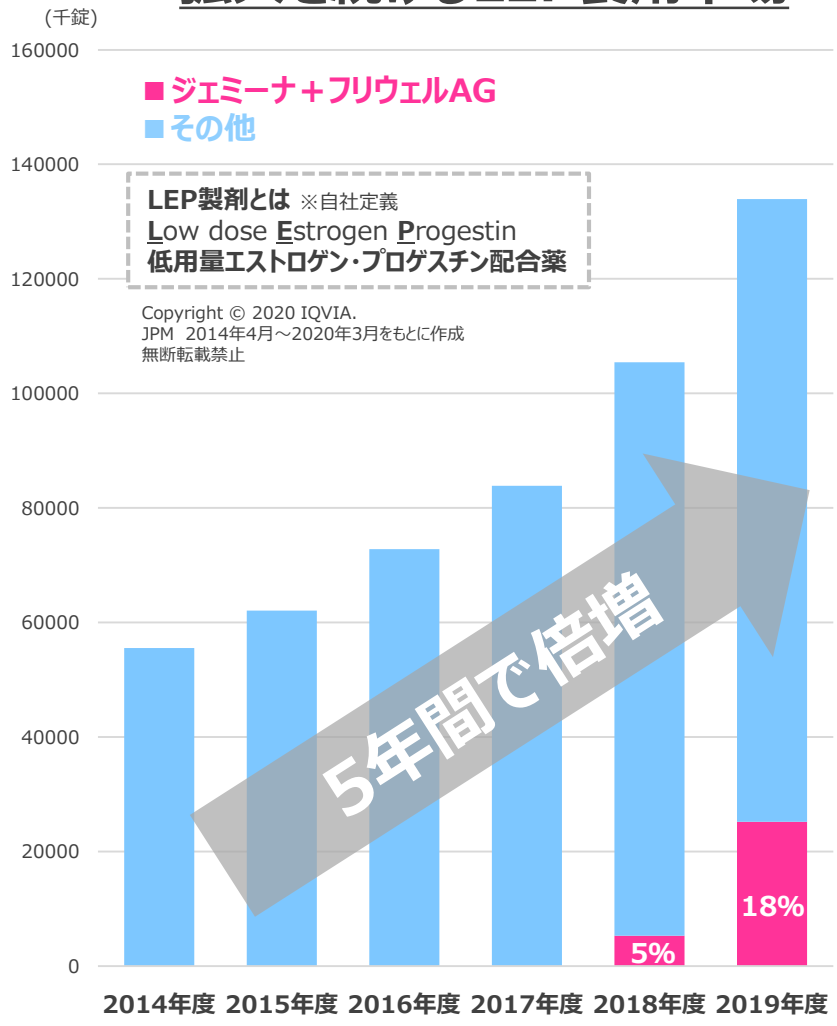


2020年3月以降
売上、軒数ともに拡大

処方日数制限解除後、GnRH市場からの切り替えも加速見込み

LEP製剤（ジェミーナ®配合錠 フリウェル®配合錠 ）

拡大を続けるLEP製剤市場



LEP製剤のニーズが高まっている



2018年10月 ノーベルファーマより発売

『ジェミーナ®配合錠』

コ・プロモーション

新しい投与方法(連続投与)の提案



2018年12月発売

『フリウェル®配合錠LD・ULD「あすか」』

オーソライズド・ジェネリック

薬剤費用・患者さん負担の軽減

その他重点領域の取り組み

内科領域
アンメットメディカルニーズへの貢献

リフキシマ

肝性脳症のKey Drugへ

1 既存抗菌薬からの切り替え

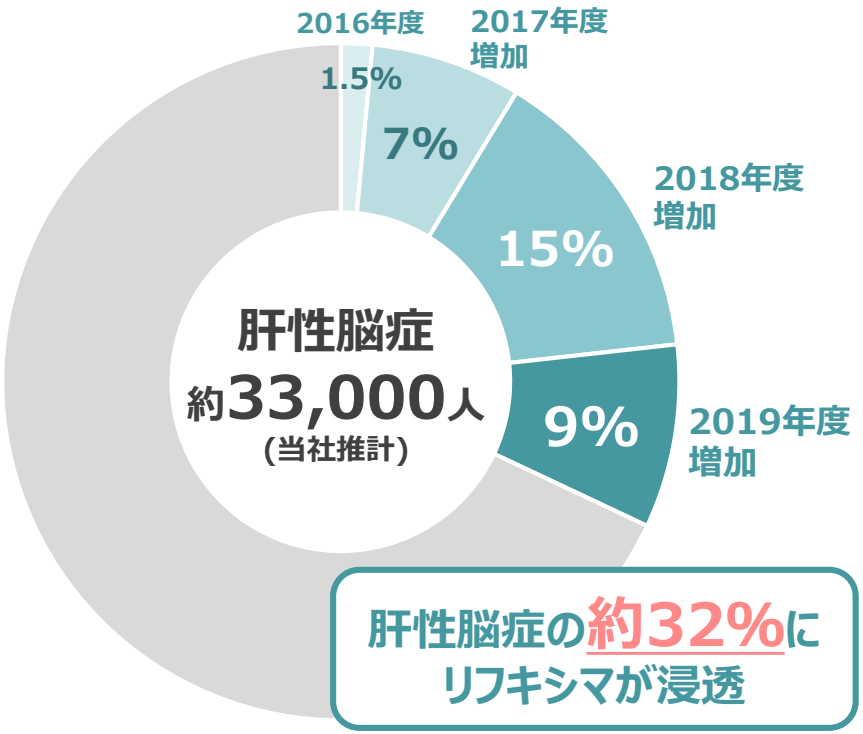
- 全例調査対象
- 流通管理品目

2 既存治療薬との併用

- 処方日数制限解除
- 全例登録解除

3 中心的薬剤の位置づけ

4 さらなる市場浸透を図る



肝性脳症の約32%に
リフキシマが浸透

肝性脳症治療の更なる貢献を目指す

甲状腺領域の取り組み

～2022年チラーヂン誕生100年にむけて～



6月下旬発売予定

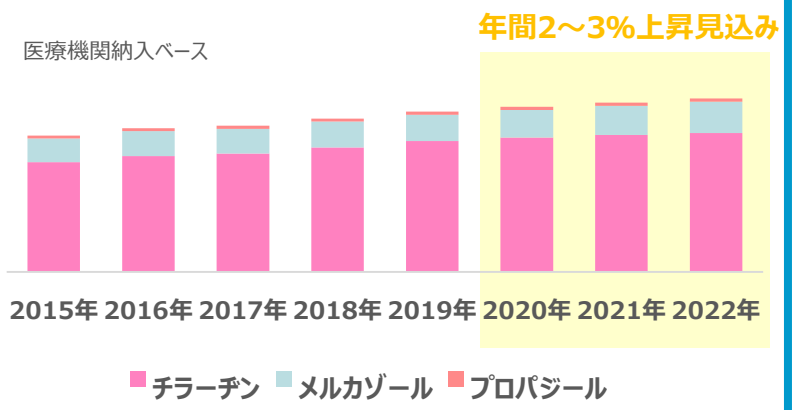
『チラーヂン®S静注液 200μg』

【効能効果】
- 粘液水腫性昏睡
- 甲状腺機能低下症 (レボチロキシンナトリウム経口製剤による治療が適さない場合)

「医療上必要性の高い未承認薬・適応外薬」として
日本甲状腺学会等から厚生労働省に要望があり
厚生労働省から開発要請を受けあすか製薬が開発

3 すべての人に健康と福祉を

甲状腺製剤の販売トレンド



基礎的医薬品

- チラーヂンS散/S錠
- メルカゾール注10mg

3 すべての人に健康と福祉を

＜基礎的医薬品とは＞
保険医療上の必要性が高く、医療現場において長期間にわたり広く使用されて有効性・安全性が確立されている医薬品であって、継続的な市場への安定供給を確保する必要があることから薬価上の措置が行われた医薬品群です。

出典：日本ジェネリック製薬協会HP

研究開発状況

開発パイプラインの拡充と創薬研究の充実

開発パイプライン

研究開発の状況 （2020年5月時点）

前回からの変更点

開発番号(一般名)／領域･効能	PhⅠ	PhⅡ	PhⅢ	申請	承認
AKP-015（レボチロキシンナトリウム） 粘液水腫性昏睡/甲状腺機能低下症					承認取得
CDB-2914（ウリプリスタル） 子宮筋腫				申請済み	
TAK-385（レルゴリクス） レルミナ 子宮内膜症			PhⅢ実施中		
AKP-501（フォリトロピンガンマ） 不妊症		PhⅠ終了			
L-105 (リファキシミン) リフキシマ 肝性脳症（小児）			PhⅡ/Ⅲ実施中		
L-105 (リファキシミン) リフキシマ クローン病		PhⅠ終了			
AKP-009 前立腺肥大症		PhⅡ実施中			

AKP-009（新規アンドロゲン受容体モジュレーター）

自社創製品の開発推進

AKP-009：自社創製 新規前立腺萎縮薬
予定適応症：前立腺肥大症に伴う排尿障害
国内開発：前期第 II 相試験開始（2019年12月~）

＜開発コンセプト＞

既存製品よりも『前立腺萎縮効果が高い』『排尿機能改善効果が高い』効果を期待

＜前期第 II 相試験概要＞

デザイン	二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験
対象	前立腺肥大症患者
投与量･投与方法	2.5mg, 5mg, 10 mg 経口投与（1 日1 回）
投与期間	12週間
症例数	105例（予定）
主要評価項目	安全性･有効性 投与12週時の前立腺体積のベースラインからの変化率
試験終了予定	2020年11月

約1,000億円ある前立腺肥大症･
排尿障害治療剤市場をターゲット

デュタステリドの特許が満了

次の新薬発売が期待されている

湘南アイパークへの移転

目的

オープンイノベーションの加速による創薬機能強化

現況

・2019年6月から先端創薬研究部が先行移転し、湘南アイパークでの研究活動を開始。湘南アイパーク入居テナントとの協業を推進中。
・2020年3月に川崎研究所完全移転を完了し、4月から湘南アイパークでの研究活動を展開中。

期待される効果

・多くの研究者や組織が集積し、産学官多様な研究者との活発な交流
・最新の機器、技術を利用し、先端の創薬研究を効率的に推進
・創薬支援ベンチャーやアカデミア発バイオベンチャー等のテナント企業との連携

グローバル展開

世界的な新型コロナウィルス感染拡大による影響により活動がストップしております

創立100周年



すべての絆とともに歩む

あすか製薬は、2020年6月16日に創立100周年を迎えます。
1920年の創立以来、一貫して「創薬」にこだわり、
患者さんにとって価値ある医薬品の創製・提供を続けてきました。
これまでの100年を、これからの未来につなげていく。
「先端の創薬を通じて、人々の健康と明日の医療に貢献する」という経営理念のもと、
あすか製薬はこれからも、人々の「生命（いのち）」に関わる企業として、
すべての絆とともに歩んでまいります。

先端の創薬を通じて、
人々の健康と明日の医療に貢献する

あすか製薬株式会社

ASKA Pharmaceutical Co., Ltd.

お問い合わせ先

経営企画部

Tel　：03－5484－8366

e-mail：kouhou@aska-pharma.co.jp

